

アーティストインタビュー 三浦一馬 KAZUMA MIURA

南米アルゼンチンのタンゴで知られるバンドネオン。しかし楽器のルーツはドイツにあり、その歴史も意外なほど新しいのです。当館で開催される『バンドネオン・シネマ』では、バンドネオン奏者・三浦一馬さんが、映画音楽の名曲をこの楽器ならではの響きで描き出します。初めてバンドネオンに触れる方にも、その奥深さと魅力がまっすぐ届くコンサートです。三浦さんに、楽器との出会いからアルゼンチンでの経験、そして“シネマ”という企画に込めた思いを伺いました。



© 日本コロムビア

10歳で出会った「大人の世界」—— バンドネオンとの衝撃的な出会い

「テレビ越しに見た瞬間、『何てかっこいい楽器なんだ！』と思ったんです」

三浦さんがバンドネオンに出会ったのは10歳の頃。NHKの音楽番組で偶然流れた特集がすべての始まりでした。

バンドネオンは南米の楽器と思われがちですが、実は19世紀ドイツ生まれ。移民たちによってアルゼンチンへ渡り、タンゴの中心的存在として花開きました。

「歴史でいえばピアノやヴァイオリンよりずっと新しい楽器なんです。骨董品のような、それでいてメカニクな魅力もあって、当時の自分には“大人の世界”そのものに見えました」

テレビで録画した演奏を何度も見返し、学校の鍵盤ハーモニカで真似をし、ついには銀座で行われたミニライブへ。

「最前列で見て、蛇腹のノイズやボタンのカチャカチャという音まで全部かっこよくて。終演後に“教えてください”と伝えたのが、すべての始まりでした」

アルゼンチンで感じた“本場の空気”—— 街が楽器を知っている国

16歳で初めてアルゼンチンへ。片道30時間の旅の果てに、これまでCDジャケットで眺めていた街が目の前に広がりました。南米のパリと呼ばれるブエノスアイレスは初めてみる街なのに、どこか懐かしさを感じたと三浦さんは語ります。

「どこへ行ってもワクワクしました。地下鉄でおじいさんがバンドネオンを弾いていたり、タクシーのラジオからタンゴが流れていたり。街の人が当たり前のように楽器を知っているんです」

師である名手・マルコーニ氏のもとで、週に数回のレッスンを受けた日々は宝物だそう。

「課題は大変でしたが、神様のような存在に毎日のように会える幸せがありました。景色や空気を体で感じることで、楽譜の向こうにある“本当の音楽”が見えてきた気がします」

無限に広がるバンドネオンの可能性—— “シネマ”という企画

『バンドネオン・シネマ』は、映画音楽をバンドネオンで奏でる人気シリーズ。2010年に初めて試みた後、コロナ禍以降さらにレパートリーを刷新しながら続けられています。

「映画音楽は、物語とともに記憶に残る力があります。往年の名作を取り上げると“当時を思い出しました”という声をよくいただきます。シネマ音楽だから、タンゴだから、というような区別はして

いません。いつまでも燦然と輝く素晴らしい音楽を感じながら演奏できることはとてもありがたいことです。どんな音楽にもまっすぐ向き合うだけです」

共演者の存在も大きいと語ります。

「ピアニストの山田武彦さんとは長いお付き合いです。背中に伝わってくる安心感といいますか、どんな瞬間も支えてくださる、包容力のある方です。心から尊敬する音楽家です」

これまでいろんな楽器と共演してきた三浦さんは、そのたびに演奏だけでなく、編曲もこなされるそうですが、それは師であるマルコーニ氏から受け継いだ精神なのだといいます。

バンドネオンは三浦さんいわく“どこへでも行ける楽器”とのこと。

「どこにでも行けるんだから行ってみようよ、という気持ちで、いろんな活動に取り組んでいます。バンドネオンの響きを楽しんでいただけたら嬉しいです」

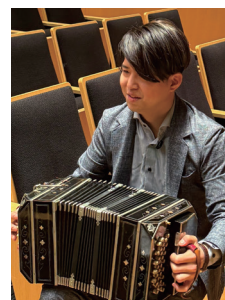
最近の趣味は料理で、調理器具を探して合羽橋巡りをするのがお好きなのだとか。

やってみたくことはたくさんあるんです！と生き生きと語る笑顔がとても印象的でした。

バンドネオンの音色は、どこか懐かしく、同時に新鮮です。映画音楽の名旋律が、この小さな蛇腹楽器によってどのように息づくのか——。

そして今回の舞台となる小金井 宮地楽器ホールの大ホールは、三浦さんが「自分の発した響き、客席に届く響き、そして壁から跳ね返って戻ってくる響き。そのすべてが素晴らしい」と語る空間です。

『バンドネオン・シネマ』は、初めての方にも、映画音楽が好きの方にも、そして三浦さんの演奏を愛する方にも開かれたコンサート。響きの余韻まで味わえるひとときを、ぜひ体験してみてください。



三浦一馬 バンドネオン・シネマ

2026年7月11日(土) 14:00開演 大ホール
全席指定 一般 4,500円 U25席 2,000円
こがねいメンバーズ一般 4,100円

【出演】三浦一馬(バンドネオン)、関 朋岳、村尾隆人(ヴァイオリン)、
生野正樹(ヴィオラ)、高木慶太(チェロ)、
小金丸章斗(コントラバス)、山田武彦(ピアノ)

【演奏曲】踊り明かそう、太陽がいっぱい、ひまわり、
ニュー・シネマ・パラダイス、酒とバラの日々、道 ほか予定

